



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位：億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
2/10 (月)	+ 900	+ 2,000	+ 2,900	国庫短期証券発行償還 (3M・6M)	国債補充供給 + 6,500	国債買入 + 9,200	日：経常収支 (12月)
2/11 (火)				建国記念の日			米：FRB議長、上院銀行委員会で証言
2/12 (水)	+ 1,000	▲ 2,000	▲ 1,000				米：FRB議長、下院金融委員会で証言 米：CPI (1月)
2/13 (木)	トン	▲ 9,000	▲ 9,000	国債発行 (10年・物連) 源泉税揚げ			米：PPI (1月) 欧：ユーロ圏鉱工業生産 (12月)
2/14 (金)	トン	+ 78,000	+ 78,000	年金定時払い			米：鉱工業生産 (1月) 欧：ユーロ圏GDP (4Q、改定値)

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、前営業日対比1兆9,000億円減少の526兆5,500億円から始まった。その後、法人税・消費税・保険料揚げ、国債発行等の要因により減少基調をたどり、7日は517兆6,700億円 (速報) で越週した。

無担保コールON物加重平均金利は週初0.476%から始まり、週半ばに一部金融機関で試し取りが行われたことから0.479%まで上昇した。週末となる7日は0.477% (速報) となった。

ターム物は1W~3W物0.48%~0.65%のレンジ、1M~3M物0.53%~0.62%のレンジで出が見られた。

来週の予定は、国内では、10日に経常収支 (12月) の公表、海外では11日にFRB議長の上院銀行委員会での証言、12日に米CPI (1月) の公表などがある。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	0.47 ~ 0.478
1M	0.55 ~ 0.70
2M	0.55 ~ 0.75
3M	0.55 ~ 0.80
6M	0.60 ~ 0.90

<レボ>

足許GC取引は週初から週末まで+0.42%~+0.46%で出合いが多く見られた。6日の取引ではレートは低下し、+0.35%~+0.40%で取引された。短国の発行が重なる週末は+0.45%近辺が出合いの中心となった。

SC取引は2年460~469回債、5年155~175回債、10年355~370回債、20年110~130回債などに引合いが見られた。

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	0.40台
CP 3M	0.50 ~ 0.60

<CP>

今週の入札発行総額は約1兆3,700億円で、週間償還額の1兆3,700億円と同程度の発行となった。発行残高は先週末時点の25兆1,998億円から、2月6日時点で25兆9,038億円に増加した。発行市場は、石油製品、鉄鋼、鉱業、建設業、電気業などで大型の発行案件が見られた。入札案件の発行レートは、政策変更に伴うレート上昇が一般化したことにより、1か月物で0.50%台前半、3か月物で0.50%台後半から0.60%台前半の出合いとなった。

来週の償還額は、1兆3,100億円となっている。発行市場は、営業日数が少なく、比較的落ち着いたマーケットが見込まれる。発行レートは先週に引き続き、1か月物で0.50%台前半、3か月物で0.50%台後半から0.60%前半と、横ばい圏での出合いを予想する。

<TDB>

6日の6M (1285回債) の入札は、最高落札利回り0.3756% (前回債0.3717%)、平均落札利回り0.3716% (前回債0.3535%) となった。

7日の3M (1286回債) の入札は、最高落札利回り0.3291% (前回債0.3397%)、平均落札利回り0.3110% (前回債0.3248%) となった。

来週の入札は14日に3Mが予定されている。